

ATTACHMENT E

# 化学大辞典

化学大辞典編集委員会編

BEST AVAILABLE COPY

9

ENCYCLOPAEDIA  
CHIMICA

---

ミムメモヤユヨ  
ラリルレロワ



共立出版株式会社

BEST AVAILABLE COPY

# 化学大辞典 9

縮刷版

© 1964

定価4,300円

昭和 37 年 7 月 31 日 初版第1刷発行  
昭和 39 年 3 月 15 日 縮刷版第1刷発行  
昭和 53 年 9 月 10 日 縮刷版第22刷発行

編 集 者	化学大辞典編集委員会
発 行 者	南 條 正 男
印 刷 者	大 久 保 絢 史
発 行 所	共立出版株式会社
	東京都文京区小日向4丁目6番19号
	電話東京(947) 2 5 1 1 (代表)
	版権口限東京 1 5 7 0 3 5 番 郵便番号 112

本文用紙	本州製紙株式会社
表紙クロス	東洋クロス株式会社

本文平版印刷	新日本印刷株式会社
原色版印刷	光村原色版印刷所
扉印刷	武石印刷株式会社
製版	大森製版所
製本	中條製本工場
製函	嶋田富秀堂

PRINTED IN JAPAN

複製権を禁ず NDC 430.3

社団法人  
自然科学者協会  
会 員



3543-310093-1371

が起こる。したがって普通誘導期は禁止剤の添加量に比例する。ヒドロキノン、ベンゾキノリン、ピロガロールや空気中の酸素などは誘導期をつくる原因となる。2) 写真：現像において露光後の写真感光材料を現像液に浸したとき、直ちに黒化が起こらないで一定時間後に黒化が開始する場合があります。この黒化の起こるまでの時間をいう。写真乳剤中のハロゲン化銀は通常過剰ハロゲンイオンを吸着して負に帯電していると考えられるが、現像の場合、現像主薬のヒドロキノンやアミノフェノールは陰イオンとして反応にあずかる。したがって現像主薬イオンがハロゲン化銀結晶に近づくためには potential barrier があり、現像開始までに時間を要するため誘導期が現われる。(2) ラグフェーズ (lag phase) → 生長曲線

(安藤・竹本・友田)

ゆうどうこうそ 誘導酵素、適応酵素 [英 induced enzyme, inducible enzyme, adaptive enzyme 德 adaptives Enzym] 誘導物質の存在によって、これに誘導されて生体がつくる酵素。古くは環境の変化に応じて生体のつくる酵素として適応酵素とよばれたが、遺伝学における適応現象のように特に合目的な意味をもつ酵素ではなく、必ず誘導物質があつて生成される酵素に限定する意味で、誘導酵素とよぶことに決められている。本来誘導物質なしで生成される酵素を、これに対比して構成酵素\*とよんでいる。たとえば大腸菌はラクトースが存在した培地に生育すると、ラクトースの  $\beta$ -ガラクトシド結合を切る  $\beta$ -ガラクトシダーゼ\*を生成する。この場合メチルチオ- $\beta$ -D-ガラクトシドのように、菌自体が生長には用いぬ物質を存在させても、酵素の生成は同じように起こる。このようにラクトースやメチルチオ- $\beta$ -D-ガラクトシドのような物質を  $\beta$ -ガラクトシダーゼに対する誘導物質 (inducer) とよんでいる。誘導酵素の生成は、特殊なタンパク生成を長時間のうちに自由に行なわしめる意味で、細菌、高等動物など、タンパク質合成の研究のために広く用いられている。(水野伝一)

ゆうどうじか 誘導磁化 [英 induced magnetization] → 磁化

ゆうどうしきでんきろ 誘導式電気炉 [英 induction furnace 德 Induktionsofen] → 誘導炉

ゆうどうししつ 誘導脂質 [英 derived lipid] 脂質の加水分解によって生成し、しかもなおエステルなどの脂質溶剤に可溶で水に不溶のものという。この中に次のものが含まれる。1) 脂肪酸 (ここでは炭素数8のカプリル酸以上のものをさすと考えるのが妥当である)。2) アルコール類：i) 直鎖アルコール、ii) ステリン質、iii)  $\beta$ -ヨノン核を含むアルコール。3) 炭化水

素：i) 鎖式炭化水素、ii) カロチノイド、iii) スクвален、4) ビタミンD 5) ビタミンE 6) ビタミンF。この誘導脂質は W.R. Bloor (1926 年) の提案を H.J. Deuel, Jr. (1951 年) がまとめた Bloor-Deuel 方式ののつとった脂質分類法で用いられる名称であるが、最近はまだあまり用いられなくなった。→ 脂質の分類 (原一三)

ゆうどうせいリアクタンス 誘導性 [英 inductive reactance] → リアクタンス

ゆうどうたい 誘導体 [英 derivative 德 Derivat] 主として有機化合物について使われる術語で、ある化合物に小部分の構造上の変化があつてできる化合物を、もとの化合物の誘導体という。普通は化合物の中の酸素原子あるいは特定の原子団が、他の原子あるいは原子団によって置換された化合物をいう。たとえばニトロベンゼン  $C_6H_5NO_2$  はベンゼン  $C_6H_6$  の誘導体であり、塩化アセチル  $CH_3COCl$  は酢酸  $CH_3COOH$  の誘導体である。広い意味では付加反応などによる生成物も誘導体ということがある。たとえば第三アミンにヨウ化メチルなどが付加して生ずる第四アミンモニウム塩、あるいはナフタリンなどの炭化水素にピクリン酸が付加して生ずる分子化合物などを、それぞれもとの化合物の誘導体ということがある。(堀一夫)

ゆうどうたんぱくしつ 誘導蛋白質 [英 derived protein] 天然のタンパク質が各種の化学試薬あるいは酵素によって化学的变化を受けるか、または熱などにより物理的に変化を受けて生成したタンパク質の総称。誘導タンパク質は、一般にもとのタンパク質の性質と異なった性質をもつが、もとのタンパク質の一次構造をそのまま、あるいはほとんど完全に保持しているものや、構造も性質も全く変化したものがある。前者の例としてゼラチン、ブラクアルブミン、酸、アルカリによって生じたメタプロテイン、凝固タンパク質などがあり、後者の例にはプロテオース、ペプトン、ペプチドなどがある。(崎山文夫)

ゆうどうちんでん 誘導沈殿 [英 induced precipitation 德 induzierte Fällung] 誘発沈殿に同じ。→ 共同沈殿

ゆうどうでんあつ ちょうせいき 誘導電圧調整器 インダクションレギュレーター [英 induction regulator 德 Drehtransformator] 変圧器\*の一種。一次巻線を回転子に二次巻線を固定子に巻いてあり、回転子の位置を変化させて単巻変圧器\*のように連続的に電圧を変化させることができる。試験用変圧器の電圧調整や電気炉の電圧、電流の調整などに広く用いられ、操作は小形の手動式と電動式とがあり、電動式の場合は電圧あるいは電流の継電器を用いて自動電圧あるいは電流調整器ともなる。ま

Derivative: this term is used in organic chemistry. A compound generated by a chemical change of a small portion in a certain original compound is called a derivative of the original compound. The term is mainly used for a substitution product but sometimes used for an addition product. It is based on, in general, a compound or a hydrocarbon with fewer number of atoms. For example, methyl chloride  $\text{CH}_3\text{Cl}$  can be called a derivative of methane  $\text{CH}_4$ , but in general, can not be called a derivative of methanol  $\text{CH}_3\text{OH}$ . In the case of ethyl acetate  $\text{C}_2\text{H}_5\text{OCOCH}_3$ , it is not only called a derivative of ethanol  $\text{C}_2\text{H}_5\text{OH}$  but also called a derivative of acetic acid  $\text{CH}_3\text{COOH}$ .

BEST AVAILABLE COPY